

**「パーキンソン病」と言う病名をお聞きになった方も多いと思いますが、この病気についてよく知らない方々に「Q&A方式」で紹介いたします。**



**Q1. なぜパーキンソン病というのですか？**

**A:イギリスの医師パーキンソン(1755-1824)が1817年にパーキンソン病6人の患者の症状をまとめて出版したことがいわれとされています。**

**Q2. パーキンソン病の患者さんはどれくらいいますか？**

**A:人口10万人に150人前後とされています。**

**Q3. パーキンソン病はどのようにして診断するのですか？**

**A:頭部CTやMRIでは異常は見られません。診察で安静時振戦、筋固縮、動作緩慢、姿勢反射障害があるかを診て診断します。**

**Q4. パーキンソン病の病状はどのように進行するのですか？**

**A:半身から始まり、全身にきわめてゆっくりと進行しますが、個人差があります。**

**Q5. パーキンソン病の治療法はどのようなものがありますか？**

**A:薬物療法が中心で日常生活に不便が生じたら飲み始め、長年にわたって生活の質を改善します。薬物療法で解決できないときは脳深部刺激療法を選択する場合があります。なお、リハビリ、音楽療法などもすすめられています。**

**Q6. パーキンソン病のくすりを何種類か処方されました。全部のまなければならぬのですか？**

**A:** エルドーパと言う物質による薬物療法が中心ですが、5年くらいで効果が減ったり、副作用がでてきいたりします。その際には、ドーパミンアゴニストと言うお薬を併用することが多く、他のくすりは補助薬となります。なお、処方されたお薬は患者さん個々の病状に応じ出されたものですから、欠かさず全てのんで下さい。

**Q7. パーキンソン病のお薬は一時中断してもいいですか？**

**A:** やめないでください。急にやめると高熱、意識障害をおこすことがあります。危険です。

**Q8. 薬がだんだん効かなくなってきました。どうすればいいのでしょうか？**

**A:** 主治医に相談し薬の増量、追加、回数増加、飲み方の工夫など行います。

**Q9. 幻覚をうったえます。どう対処すればいいのでしょうか？**

**A:** 軽い場合は傾聴してあげてください。日常生活に支障がある場合、薬を減量したり、幻覚を抑える薬を処方することもあります。なお、急に精神症状が出た場合は受診が必要です。

**Q10. iPS細胞の研究はすすんでいるのでしょうか？**

**A:** 我が国では既に遺伝性パーキンソン病患者の iPS 細胞作成に成功しており、将来はより効果的な治療の開発に役立つと期待されています。

※当院では、パーキンソン病にかかるご相談について随時受けつけております。  
お問い合わせ先：地域医療連携室 宮原、上田（Tel.0767-53-1890）